

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

**70<sup>th</sup>**  
ANNIVERSARY

# 2012年度(2013年3月期) 第3四半期 決算説明会

2013年 1月31日

**セイコーエプソン株式会社**

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

---

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

---

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

1) 2012年度 第3四半期決算

2) 2012年度 業績予想

## 決算ハイライト (9ヶ月累計)



9ヶ月累計 (億円)		2011年度		2012年度		増減	
		通算	%	通算	%	増減額	増減率
売上高		6,646	-	6,241	-	-404	-6.1%
営業利益		211	3.2%	117	1.9%	-93	-44.1%
経常利益		214	3.2%	120	1.9%	-93	-43.6%
税引前利益		86	1.3%	△26	-0.4%	-113	-
純利益		3	0.1%	△126	-2.0%	-130	-
EPS		2.04円		△70.50円			
換算 レート	USD	79.01円		80.00円			
	EUR	110.64円		102.17円			

### ■ 2012年度第3四半期までの9ヶ月累計

- 売上高は 6,241億円、
- 営業利益は 117億円、
- 純損失は 126億円。

## 決算ハイライト（第3四半期決算）



(億円)	2011年度		2012年度		増減	
	3Q実績	%	3Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,391	-	2,358	-	-32	-1.3%
営業利益	143	6.0%	259	11.0%	+116	+81.0%
経常利益	153	6.4%	262	11.1%	+109	+71.8%
税引前利益	85	3.6%	269	11.4%	+184	+216.3%
四半期純利益	47	2.0%	228	9.7%	+180	+378.7%
EPS	25.21円		127.64円			
換算 レート	USD	77.41円	81.17円			
	EUR	104.33円	105.25円			

### ■ 2012年度第3四半期の実績

- 売上高は、前年同期比 32億円減収の 2,358億円、  
営業利益は 116億円増益の 259億円、  
四半期純利益は 180億円増益の 228億円。
  
- また、10月31日に発表した前回予想のベースとなる、  
第3四半期の社内計画に対しては、  
売上高は、デバイス精密機器セグメントを中心に未達となったものの、  
営業利益は、情報関連機器セグメントを中心に採算性を改善した製品の投入、  
オペレーション改善の取り組み効果などにより、  
全社としては、ほぼ前回予想どおり。

### インクジェットプリンター事業

- 市場環境は、欧米市場に加え日本市場もマイナス成長
- 本体販売数量は予想未達、消耗品売上は予想どおり
  - ✓ オフィス向けモデルの数量比率、新興国向け大容量インクタンクモデルの拡大、小型化モデル比率の拡大は、概ね計画線
- 本体コストダウン、価格維持施策の計画どおりの推進により、営業利益は予想並み

### ビジネスシステム事業

- ビジネスシステム事業は、引き続き欧州の景気低迷や、中国の成長鈍化などの影響があったものの、売上高・営業利益ともに予想並み

### ビジュアルプロダクツ事業

- プロジェクター販売数量は前年同期比プラス成長だったものの、米州における tender 案件や、アジアでの教育市場の需要減の影響により販売数量・売上高未達
- 価格維持、モデルミックス改善により営業利益は予想並み

## ■ 第3四半期における業績のポイント

- インクジェットプリンター事業では、消耗品の売上は計画どおりだったものの、本体の販売においては、プリントボリュームが小さい低価格ホームインクジェットプリンターの数量の絞込みを進めたことに加え、欧米市場が引き続きマイナス成長だったこと、ならびに上期は好調に推移していた日本市場がマイナス成長となった影響を受け、売上高は若干未達。
- そうした中、市場がマイナス成長となったことにより 若干の影響は受けたものの、戦略の核として従来から取り組んできている オフィス向けモデルの販売数量比率、ならびに新興国を中心に展開している大容量インクタンクモデルの拡大、また今下期から一層の拡大をはかっている小型化モデルの比率については、戦略に基づいて着実に進捗させることができた。
- 営業利益面は、新製品投入の効果などに加え、本体コストダウンの進捗や価格維持施策による収益性の改善を着実に進めたことにより、ほぼ社内計画並み。
- ビジネスシステム事業は、引き続き欧州の景気低迷や、中国の成長鈍化による影響を受けたものの、売上高・営業利益ともにほぼ社内計画並み。
- ビジュアルプロダクツ事業では、プロジェクターの販売数量は前年同期比5%程度のプラス成長を確保したものの、米州における tender 案件や、アジアにおける教育市場の需要減の影響などから、売上高は未達。  
営業利益面では、価格維持施策の効果や、高付加価値製品が堅調だったことから、ほぼ社内計画並み。

## 2012年度第3四半期 業績のポイント(前回予想比)



### マイクロデバイス事業

- ▶ デジタル家電や、携帯電話、スマートフォンなどの完成品の需要低迷により、売上高は予想未達だったものの、継続的な固定費削減の取り組みなどで営業利益は予想並み

### 精密機器事業

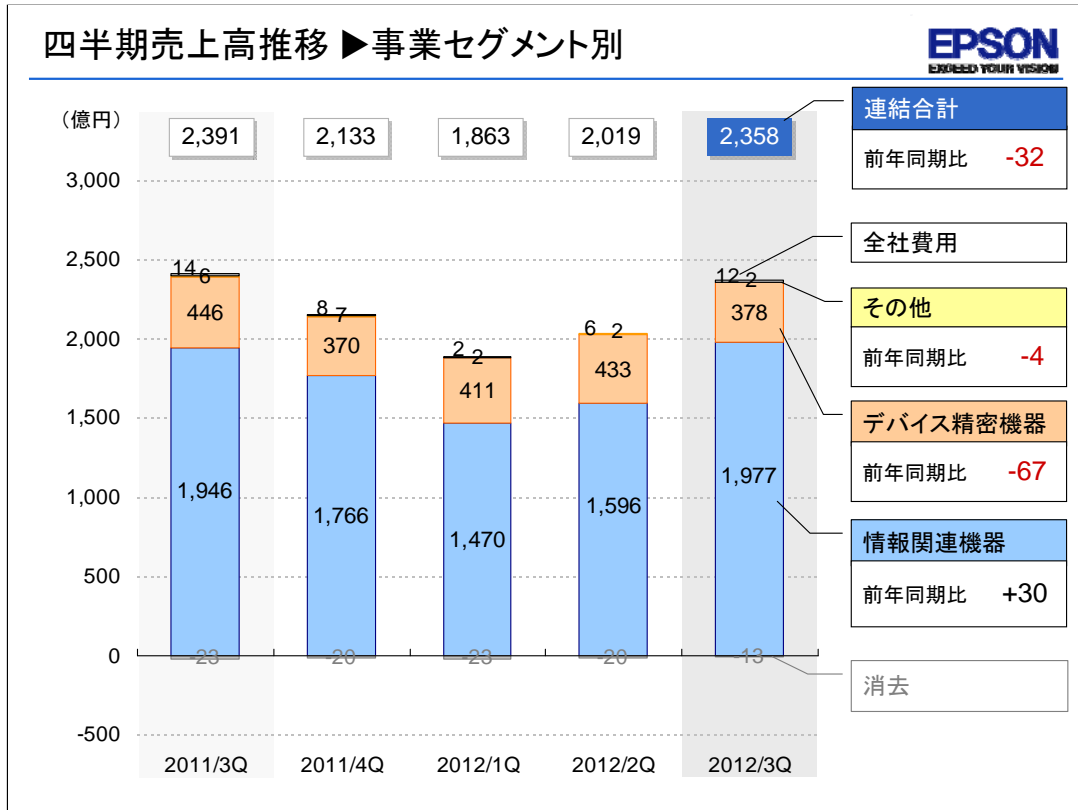
- ▶ ウォッチ事業は高価格帯や国内向け腕時計が堅調に推移
- ▶ FA機器事業は、設備投資需要の回復の遅れから、ICハンドラーを中心に未達
- ▶ 売上高は社内計画未達だったものの、営業利益は予想並み

### ■ SE15後期 中期経営計画

- ▶ マクロ経済環境、市場環境、競争環境の変化を踏まえ、戦略の有効性、目標値の合理性については引き続き、検証・見直し中
- ▶ 検証・見直しの結果については、3月中に公表

### ■ 第3四半期における業績のポイント

- ▶ マイクロデバイス事業は、デジタル家電や、携帯電話、スマートフォンなどの完成品の需要が低迷していることから、売上高は社内計画に対して未達だったものの、固定費削減などの取り組み効果により営業利益は社内計画並み。
- ▶ 精密機器事業は、ウォッチ事業は、高価格帯や国内向け腕時計が堅調に推移したものの、FA機器事業において、設備投資需要の回復の遅れから、ICハンドラーを中心に販売数量が届かなかったことにより 売上高は未達となったが、固定費の削減などにより、営業利益は社内計画並み。
- ▶ 以上により、繰り返しになるが、全社では第3四半期の社内計画に対して、売上高は未達となったが、営業利益は、ほぼ前回予想どおり。
- ▶ なお、第2四半期の決算説明会において説明のとおり、2012年度を第1年次とするSE15後期 中期経営計画については、マクロ経済、市場環境、競争環境の変化を踏まえ、戦略の有効性と目標値の合理性について、引き続き検証と見直しを進めている。その結果については、3月中にあらためて公表。

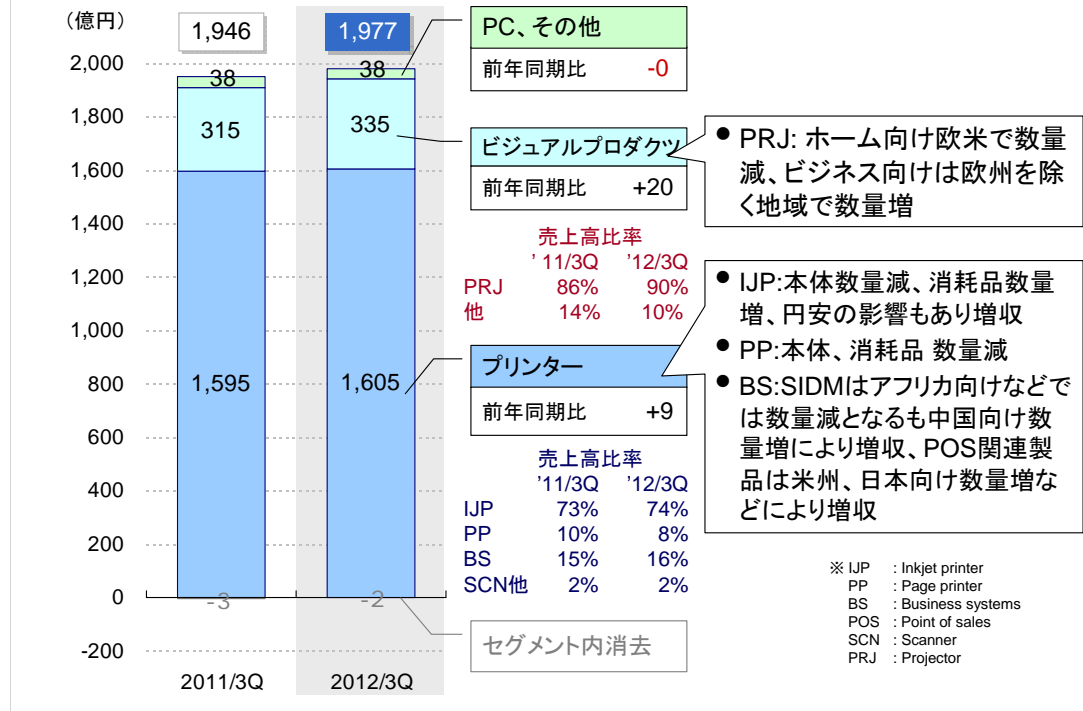


■ 事業セグメント別の四半期 売上高推移

- 情報関連機器セグメントは、前年同期比 30億円の増収となったものの、デバイス精密機器セグメントが、前年同期比 67億円の減収となったことにより、全社で 32億円の減収。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、62億円のプラス影響。



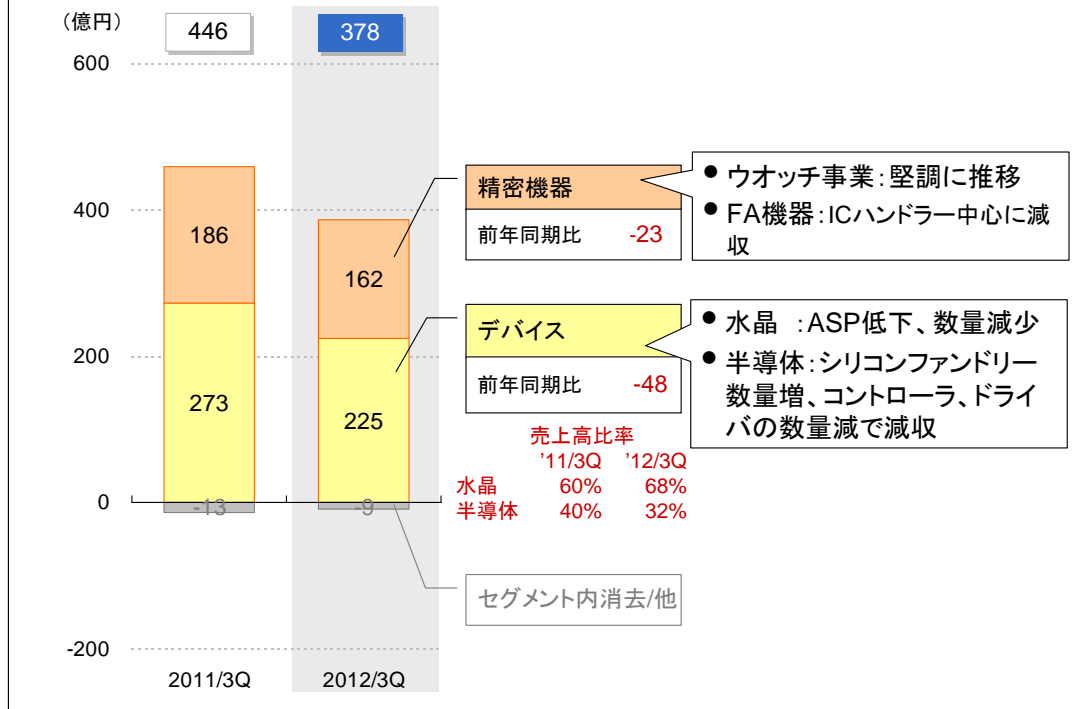
## 四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器セグメントの第3四半期売上高

- プリンター事業は、9億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体は数量減により減収となったものの、低価格品の絞込みや価格維持などによりASPが大幅に改善するとともに、消耗品の数量増、ならびに円安の為替影響により増収。
- 本体の地域別状況については、欧米ならびに日本市場が前年割れとなる中、当社も全地域において数量減。
- ページプリンターは、日本や欧州における案件減少の影響により本体ならびに消耗品が数量減となり、減収。
- ビジネスシステムは、為替の影響に加え、SIDMは、アフリカや中東、東欧での数量減があったものの、中国向け徴税需要がボトムだった前年に比べ数量増となったことにより増収、また、POS関連製品が、米州における中小小売店舗向け ならびに日本向けクーポンプリンターが数量増となったことなどにより、増収。
- ビジュアルプロダクツは、プロジェクターの市場環境において、日本や北米での需要低迷のほか、中国、インド市場などにおける拡大の鈍化が見られた。そうした中、当社は欧米においてホームプロジェクターの数量が減少したものの、欧州を除く全地域においてビジネス向けの数量を伸ばしたこと、ならびにモデルミックスの改善に努めたことにより、前年同期比 20億円の増収。

## 四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ デバイス精密機器セグメントの前年同期比較。

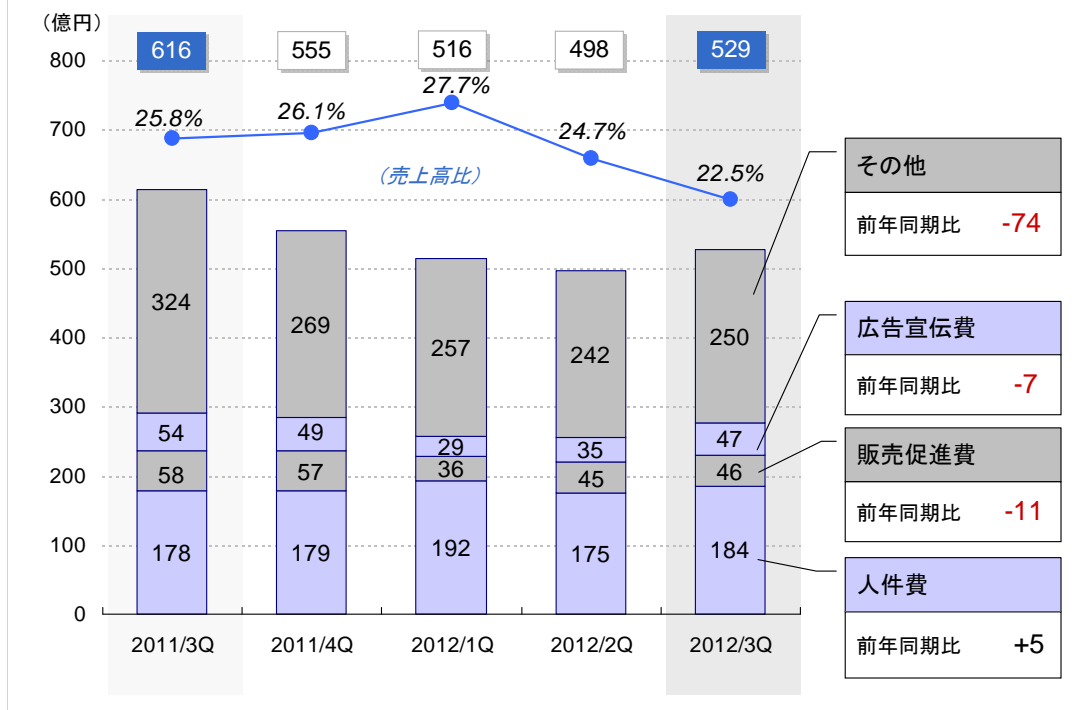
#### ➤ デバイスは、

水晶が、ASPの低下 ならびに景気低迷による需要の減少により、  
また半導体が、シリコンファクトリーが増となったものの、  
コントローラやドライバの数量減により、減収。

#### ➤ 精密機器は、

高価格帯や国内向け腕時計が好調だったウォッチ事業を中心に  
堅調に推移したものの、FA機器事業において、投資抑制の影響による  
ICハンドラーの数量減などにより、減収。

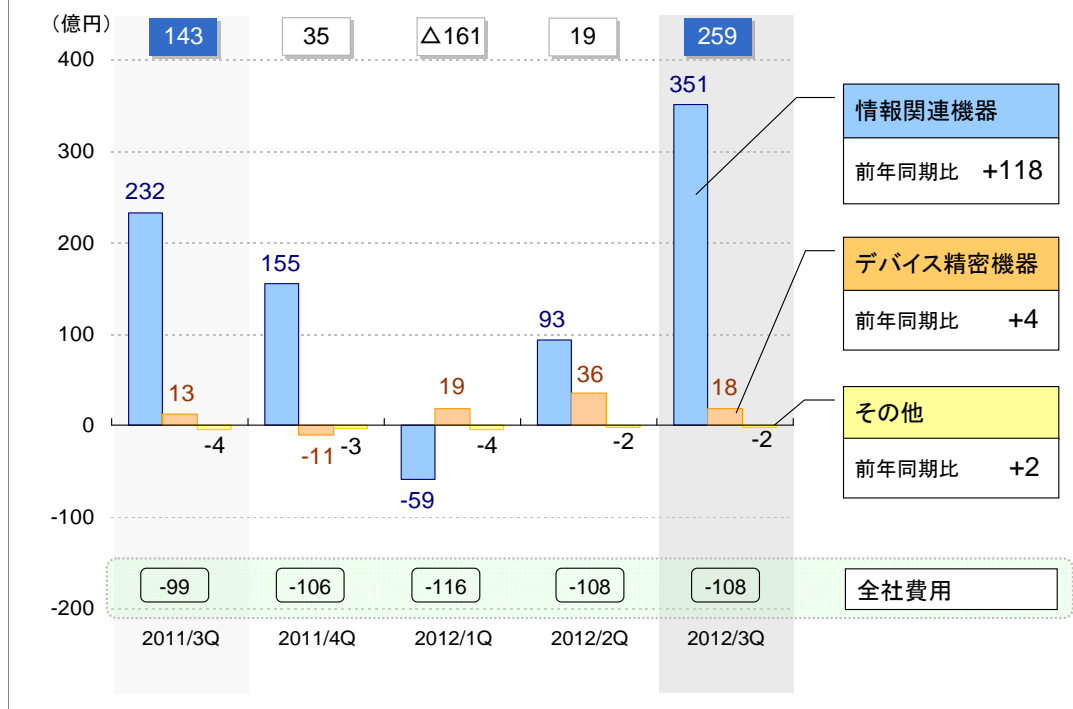
## 四半期販売費及び一般管理費推移



### ■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 各費用において効率的な執行に努めたことにより、東日本大震災と タイ洪水影響に起因する物流費の増加などがあった前年同期に比べ、下回る金額となった。

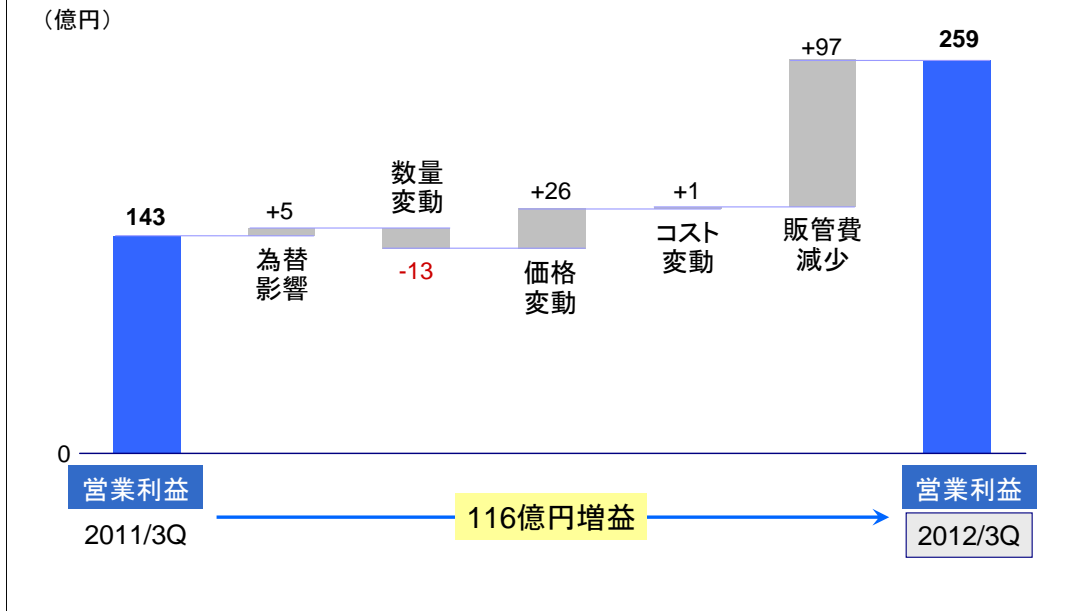
## 四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



### ■ 事業セグメント別の四半期営業利益推移

- 当四半期の為替影響は、約5億円のプラス影響。
- 情報関連機器は、前年同期比 118億円増益の 351億円。
- インクジェットプリンターは、消耗品の増収に加え、本体の価格維持や小型化モデル投入によるモデルミックスの改善、ならびにコストダウンの推進などにより、増益。
- ページプリンターは、固定費削減により増益。
- ビジネスシステム、ならびにビジュアルプロダクツは、ほぼ前年並み。
- デバイス精密機器は、精密機器が減収により減益となったものの、デバイス事業におけるコストダウンや要員転換の進捗にともなう固定費削減効果などにより、4億円増益の 18億円。

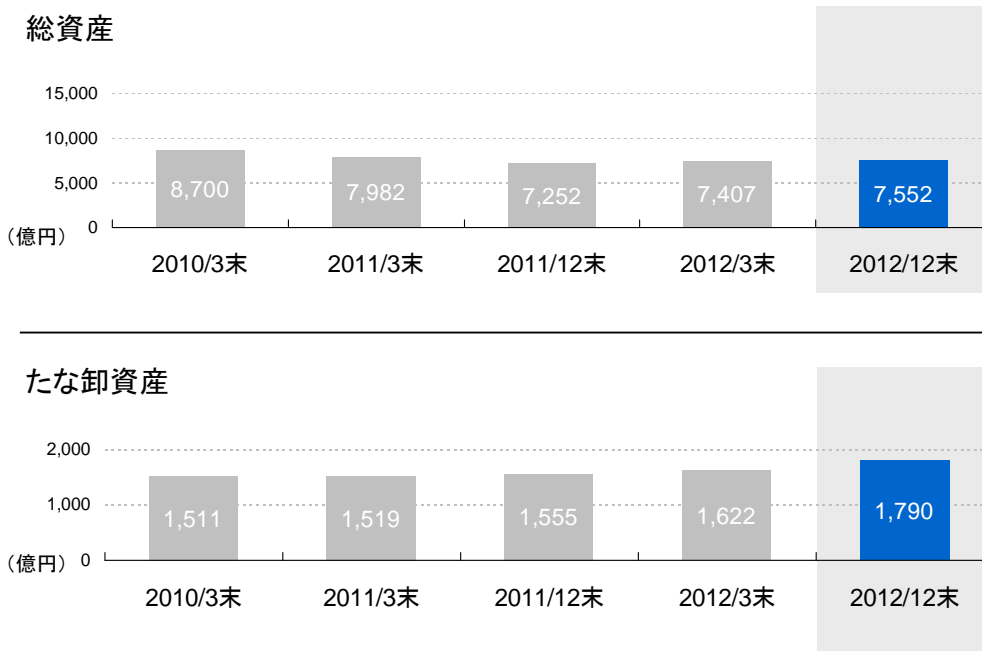
## 営業利益増減要因分析



### ■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2011年度 第3四半期の営業利益 143億円 に対し、販管費が減少したことや、価格変動などの増益要因により、四半期営業利益は 259億円。

## 貸借対照表主要項目推移



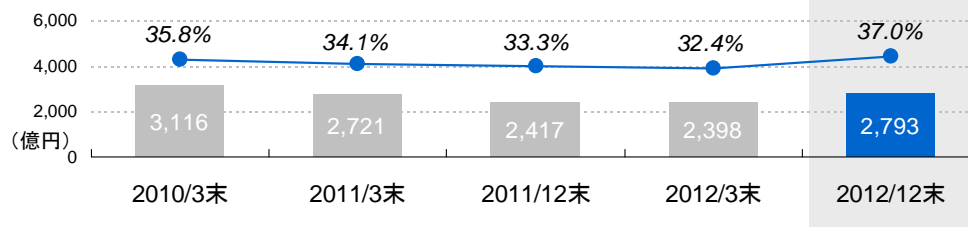
### ■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、  
手元資金の減少があった一方  
たな卸資産や 受取手形及び売掛金、  
ならびに 有形固定資産などの増加により、  
前期末に比べ 144億円増加。

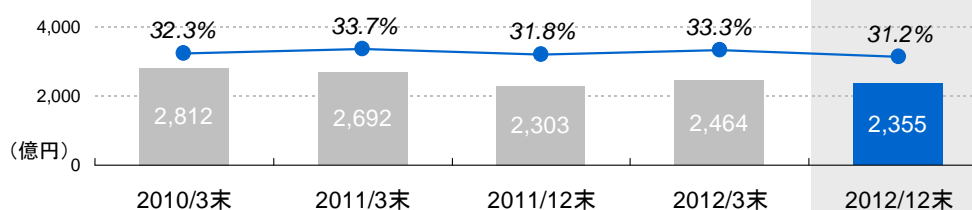
## 貸借対照表主要項目推移



### 有利子負債・有利子負債依存度



### 自己資本・自己資本比率



\*有利子負債:リース負債を含む  
\*自己資本:純資産合計-少数株主持分

## ■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、短期ならびに長期借入金の増加により、前期末に比べて394億円増加し、総資産の有利子負債依存度は 37.0%。ネット有利子負債は、1,439億円。
- 自己資本は、第3四半期までの業績などにより、前期末に比べ 108億円減少し、その結果、自己資本比率は 31.2%。

1) 2012年度 第3四半期決算

2) 2012年度 業績予想



## 2012年度業績予想



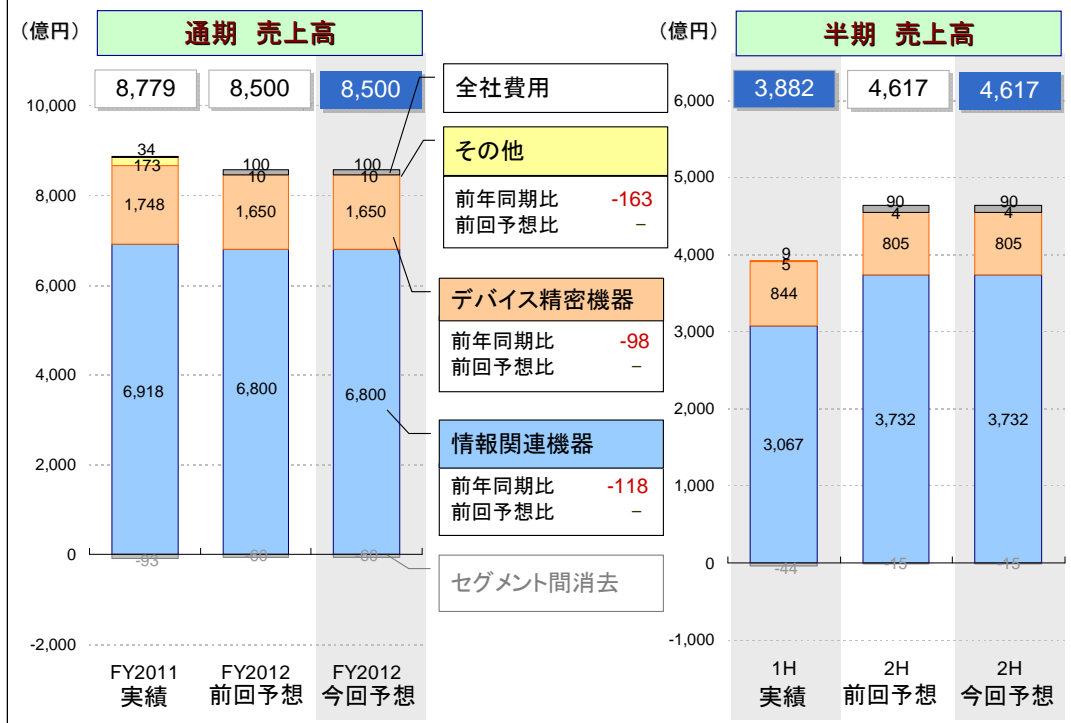
(億円)	2011年度		2012年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	10/31予想		今回予想		前期実績比	前回予想比
				%		%		
売上高	8,779	-	8,500	-	8,500	-	-279 -3.2%	-
営業利益	246	2.8%	180	2.1%	180	2.1%	-66 -26.9%	-
経常利益	270	3.1%	160	1.9%	160	1.9%	-110 -40.8%	-
税引前利益	156	1.8%	△40	-0.5%	△40	-0.5%	-196 -	-
当期純利益	50	0.6%	△150	-1.8%	△150	-1.8%	-200 -	-
EPS	26.22 円		△83.85 円		△83.85 円			
換算 レート	USD	79.08 円	77.00 円		79.00 円		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">                     今回予想                      2012年度4Qの予想前提レート                      USD: 75.00円                      EUR: 100.00円                 </div>	
	EUR	108.98 円	100.00 円		102.00 円			

前回予想 下期以降の予想前提レート  
USD: 75.00円、EUR: 100.00円

### ■ 2012年度の業績予想

- 通期業績予想は、  
売上高、ならびに各段階利益については、前回予想から変更なし。
- 売上高は、8,500億円、  
営業利益は、180億円、  
当期純利益は、150億円の損失に、据え置き。
- なお、今回の第4四半期の為替前提を  
前回予想と同じ、USDを75円、ユーロを100円とした。
- 足元において為替は円安方向へと推移しているが、  
一方で、第4四半期は、  
インクジェットプリンター、ビジネスシステム、プロジェクターなどの完成品事業、  
ならびに、水晶・半導体、FAなどのデバイス精密機器事業において、  
景気回復の遅れによる一段の市場減速が予想され、  
従来の想定以上に厳しい事業環境となる見通し。
- こうした環境下においても、経営としての強い意思のもと策定し、  
公表した10月31日の通期営業利益180億円の業績予想については、  
為替の追い風を期待することなく、あくまでも  
前回予想レート前提での達成に最後までこだわり、取り組んでいく。

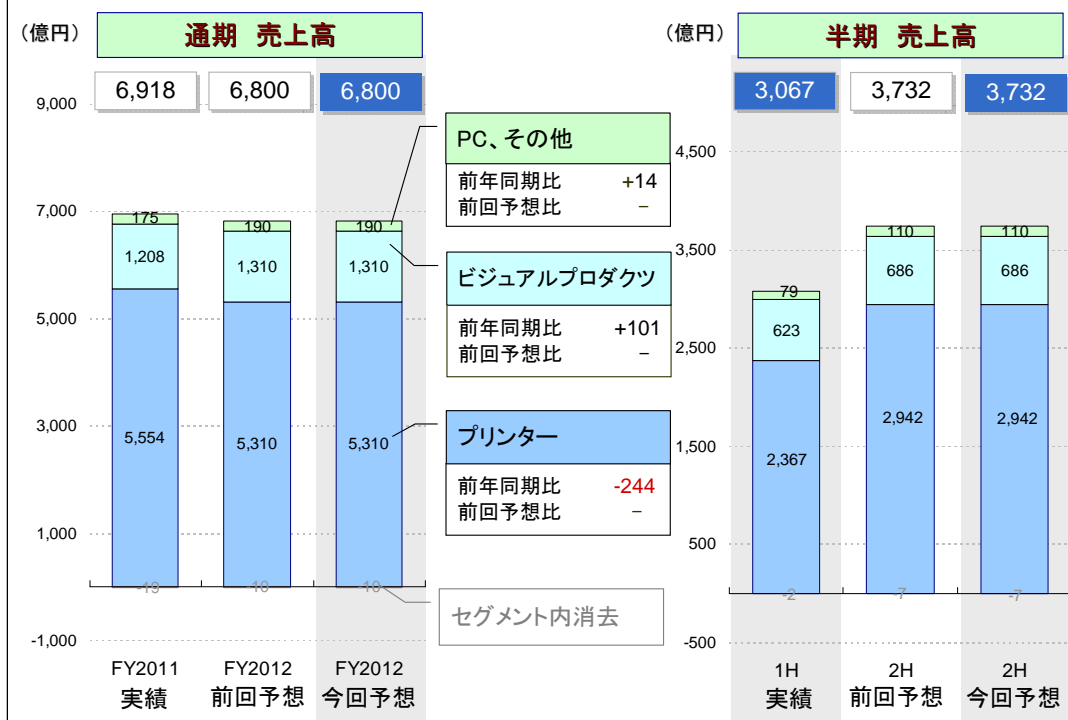
## 2012年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



### ■ 2012年度の事業セグメント別売上高の予想、上期／下期別の内訳

- 事業セグメント別の売上高、  
ならびに 各事業別内訳の予想に変更なし。

## 事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器セグメントの事業部門別売上高予想の内訳

#### ➤ ビジュアルプロダクツは、

欧米に続き、中国の景気減速影響による

プロジェクター市場の成長鈍化が第4四半期も継続することが見込まれる。

第3四半期実績、ならびに直近の市場環境を踏まえ、

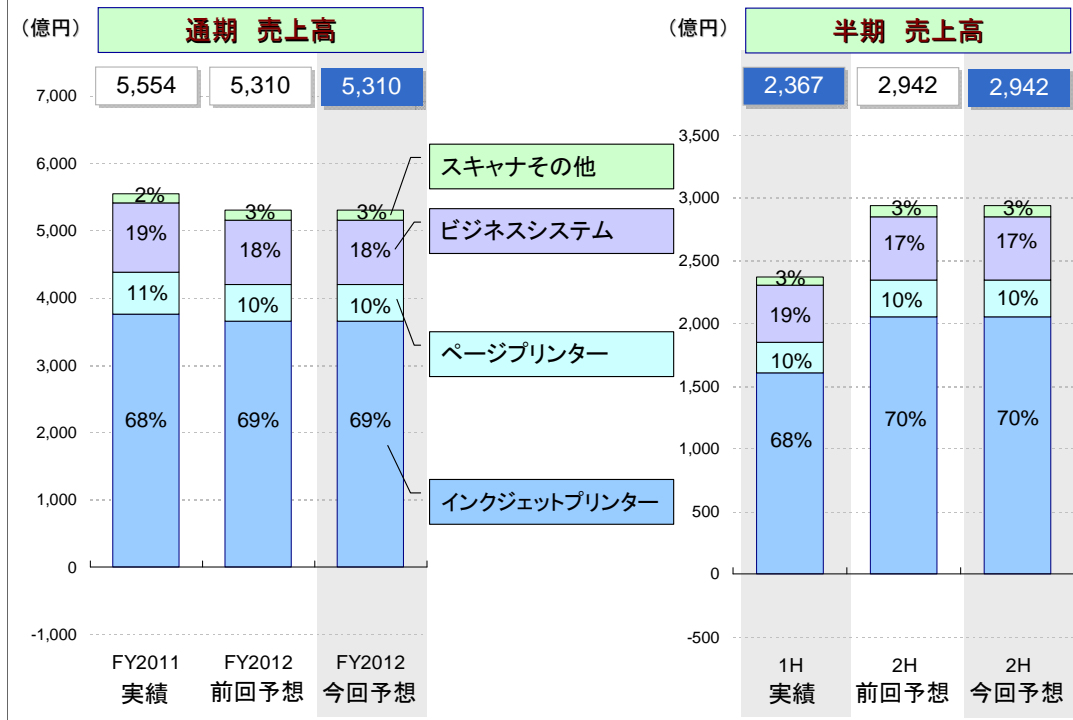
年間販売数量の前提の見直しを行うが、

引き続き、価格維持施策 ならびに高輝度や短焦点など当社が競争力をもつ

戦略製品を中心に拡販に努め、モデルミックスの改善やテンドー案件の

取り込みを進めていく。

## 事業別売上高予想 ▶ プリンター事業



### ■ プリンター事業の製品別売上高予想

#### ➤ インクジェットプリンターは、

本体、消耗品ともに前回予想から変更なし。

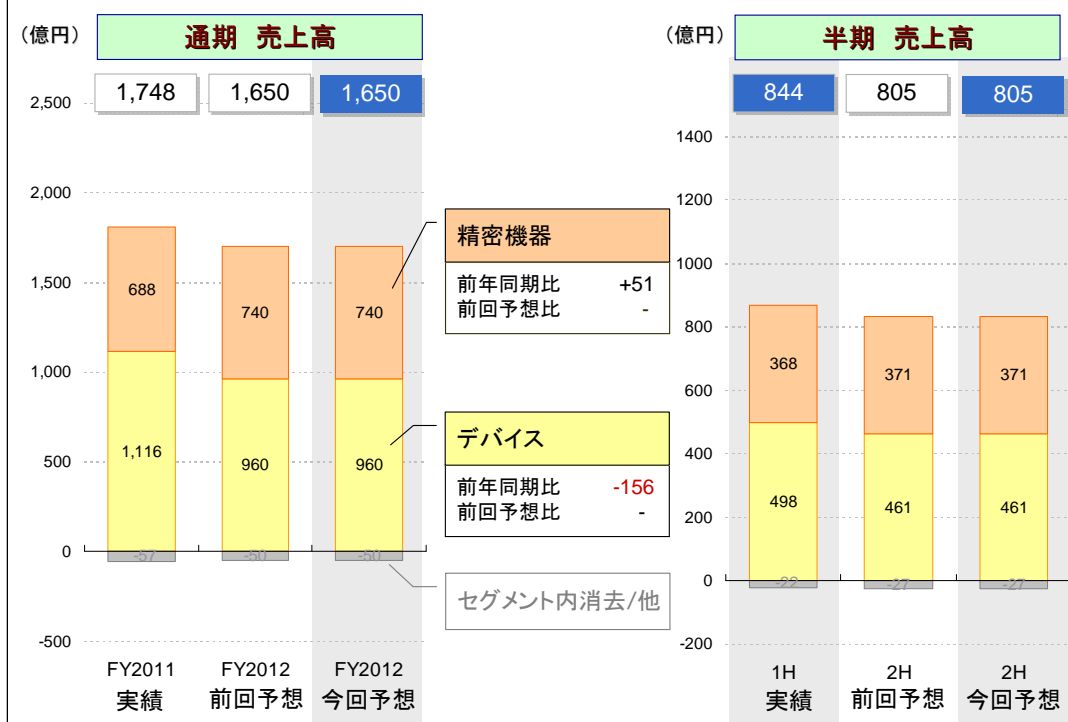
第3四半期の販売実績を受け、年間の本体販売数量を若干見直すか、引き続き、過度に数量を追うことはせず、価格の維持、モデルミックスの改善、MIF構成の改善に取り組んでいく。

#### ➤ ビジネスシステムは、

本格的な需要回復がなく、厳しい事業環境が継続するが、着実に個々の案件を取り込んでいく。

一方で、中国におけるSIDMの案件需要や、北米におけるPOS関連製品の大型案件の一部に回復の兆しがあることから、第4四半期は更なるビジネスチャンスの取り込みを図っていく。

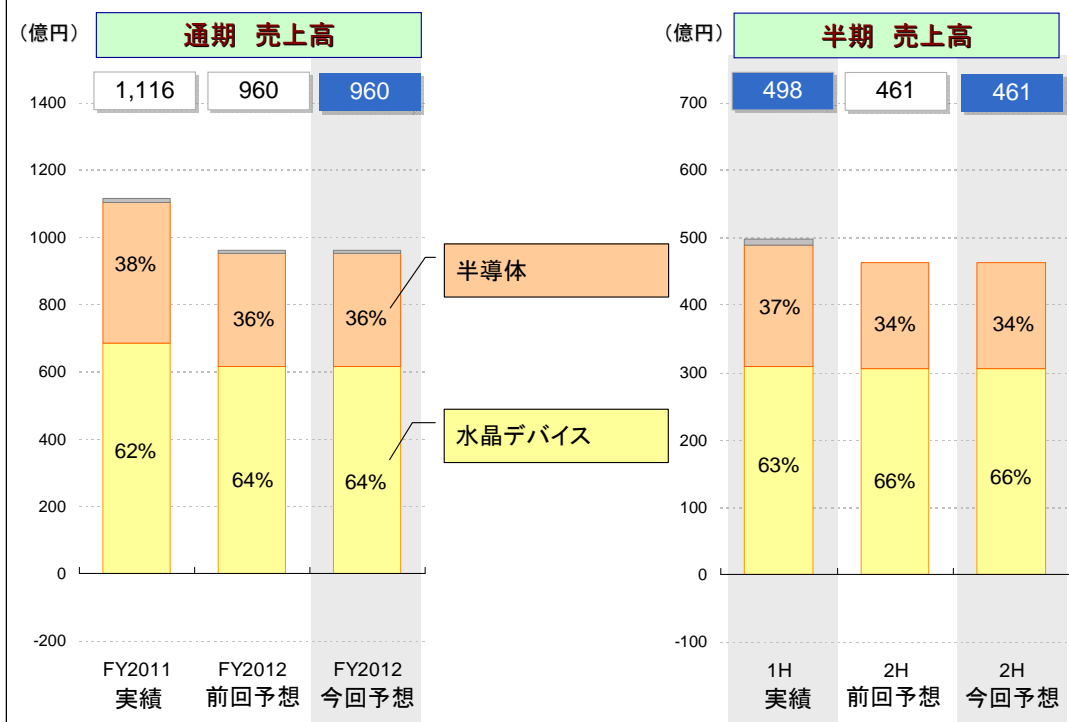
## 事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上高予想の内訳

- シーズナリティに加え、市況の回復が遅れていることから、第4四半期は厳しい市場環境が継続するものの、販売機会を確実に取り込むことで、計画の達成に取り組んでいく。

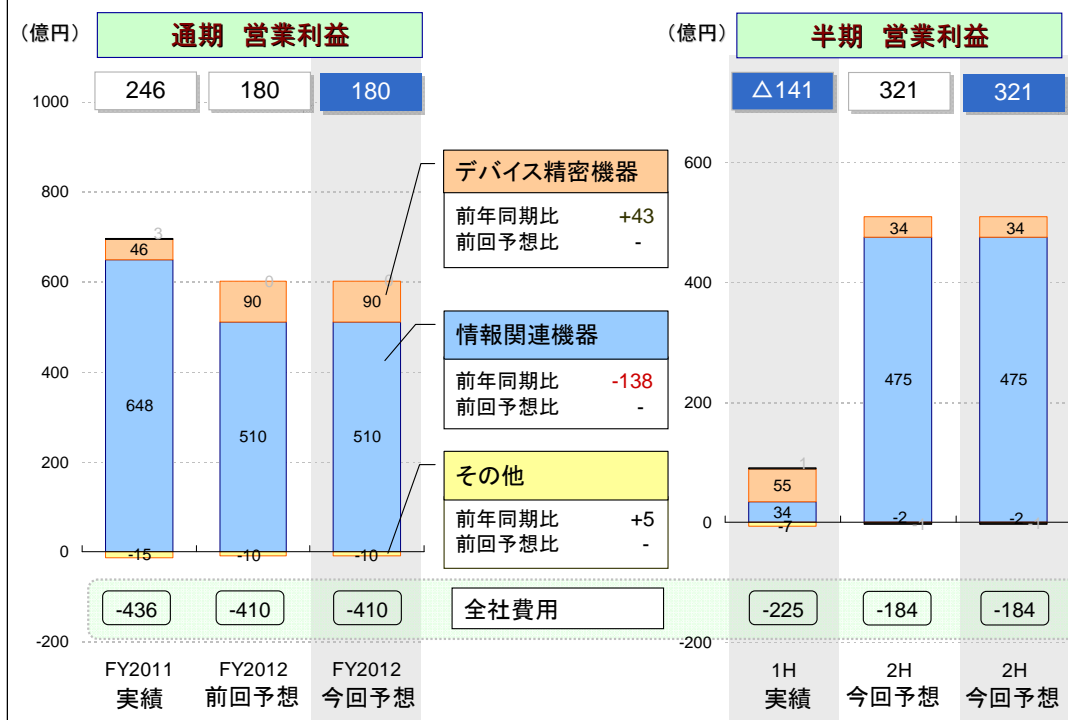
事業別売上高予想 ▶ デバイス事業



■ デバイス事業の製品別売上高予想

➤ 水晶デバイス、半導体ともに、変更なし。

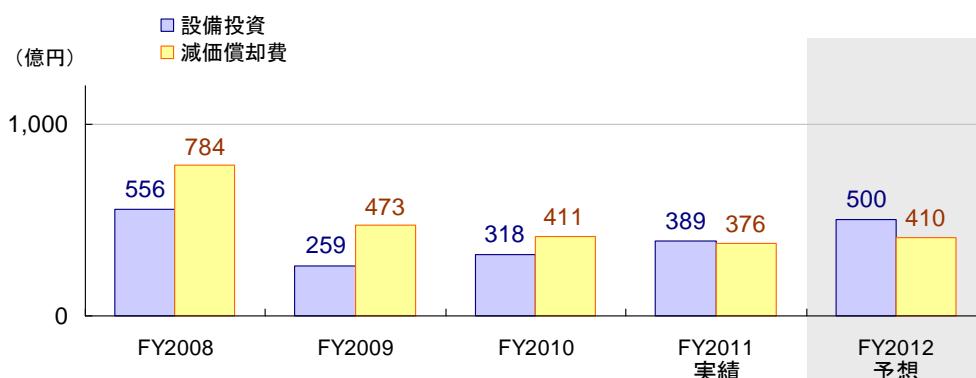
## 2012年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



### ■ 営業利益の事業セグメント別予想、上期／下期別の内訳

- 前回予想から変更なし。
- 情報関連機器は、  
インクジェットプリンターを中心に、コストダウン効果を実際に取り込むことに加え、  
販売状況の変化に応じた製造と在庫の適切なコントロール、  
および費用の効率的な執行を行っていく。
- デバイス精密機器は、  
変動費改善や、固定費削減などの効果を取り込み  
目標利益を達成する。

## 設備投資・減価償却費予想



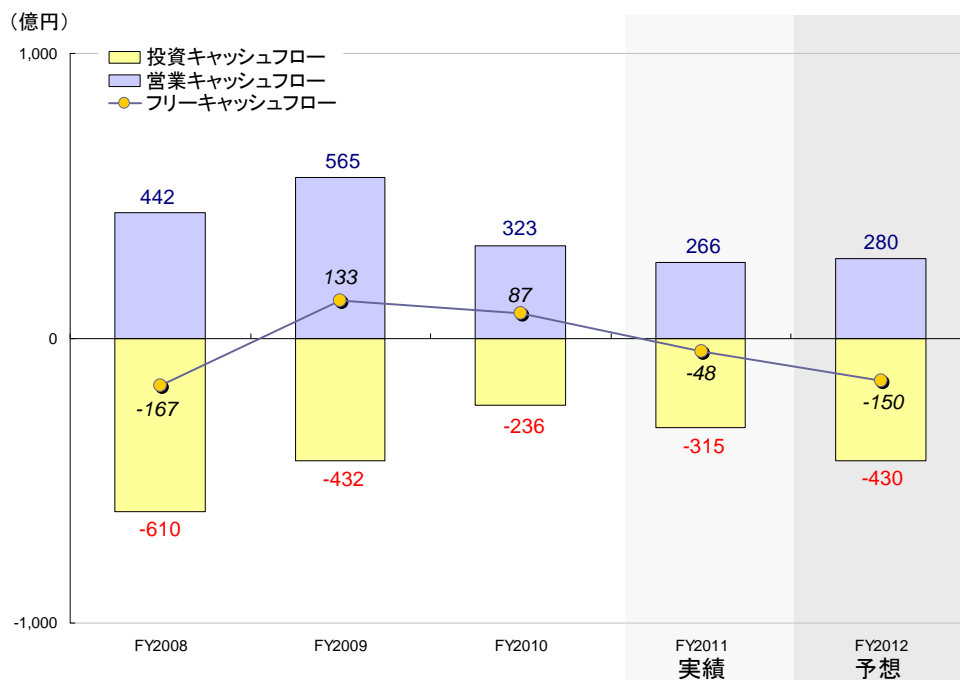
<セグメント別内訳>	FY2011実績		FY2012予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	295	227	380	270
デバイス精密機器	68	101	90	90
その他・調整額	25	46	30	50

### ■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は、案件の厳選により前回予想から、500億円に見直し。  
減価償却費は、前回予想の410億円から変更なし。



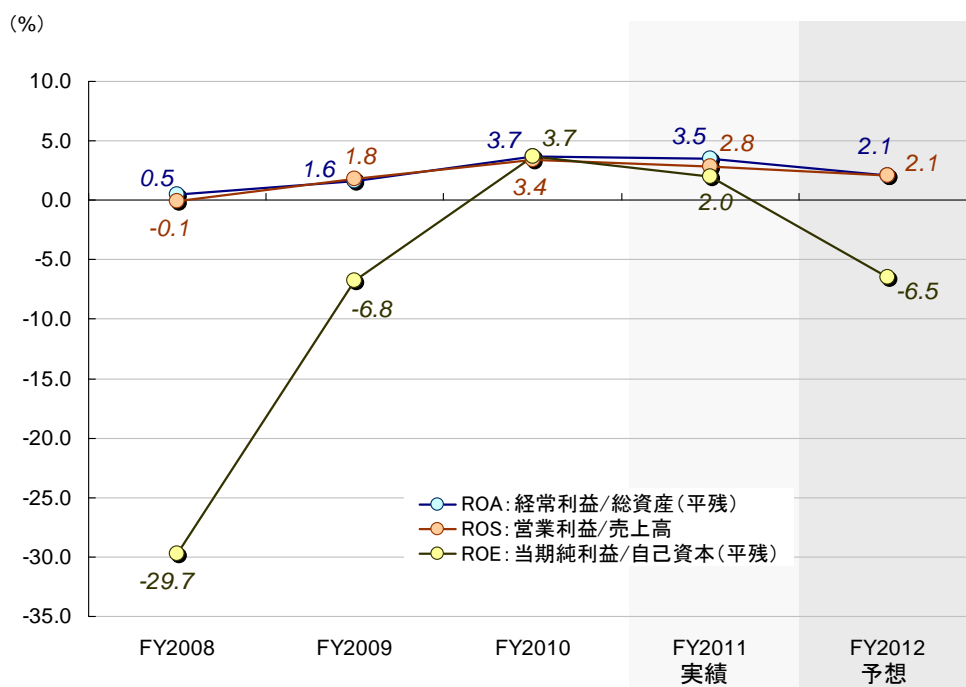
## フリーキャッシュフロー予想



### ■ キャッシュフロー

- 第3四半期業績と設備投資計画の見直しを受け  
投資キャッシュフローならびに営業キャッシュフローをそれぞれ見直し。
- フリーキャッシュフローについては前回から変更なし。

## 主な経営指標の推移



### ■ 主な経営指標

ROSは 2.1 %、 (営業利益率)

ROAは 2.1 %

ROEは マイナス 6.5 %

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION